

## (6) 東海



東海地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

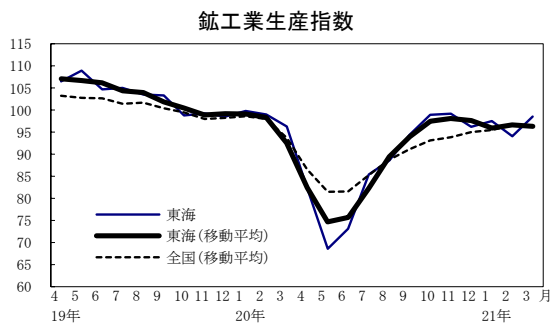
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和3年3月)	今回 (令和3年6月)	
景況判断	景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、 <u>持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している</u>	↓
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しの動きに <u>足踏みがみられる</u>	↓
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に <u>弱い動きとなっている</u>	↓

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

1－3月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」は金属工作機械等が増加したが、「輸送機械」は乗用車、自動車部品等が減少したこと等により、前期比1.4%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。  
 2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 東海は中部経済産業局「管内鉱工業の動向」、関東経済産業局「鉱工業生産の動向(2021年3月のみ速報)」により内閣府にて算出。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	40.1	13.4	▲8.0	▲1.3	▲7.5	9.4
電子デバイス、電気・情報通信	13.3	5.7	4.6	6.7	▲1.5	▲0.3
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	6.6	1.4	▲2.2	▲0.1	3.4
汎・生産・業務用機械	11.2	9.3	8.2	6.5	1.6	▲1.1
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	11.5	3.5	5.6	▲2.3	2.9
鉱工業	100.0	9.6	▲1.4	1.4	▲3.5	4.7

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」、関東経済産業局「鉱工業生産の動向(2021年3月のみ速報)」により内閣府にて算出。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

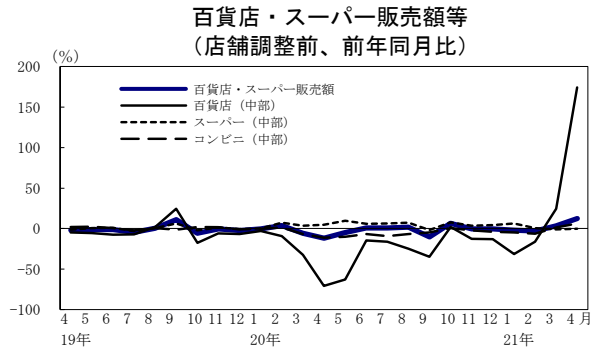
個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

### (1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1－3月期は前期比2.2%減となった。月別にみると、1月は前月比3.0%減、2月は同3.0%増、3月は同0.3%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1－3月期は前年同期比0.6%減となった。月別にみると、1月は前年同月比2.0%減、2月は同2.9%減、3月は同3.2%増となった。



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI (消費*1)	▲2.2	▲3.0	3.0	0.3	—
百貨店・スーパー(*2)	▲0.6	▲2.0	▲2.9	3.2	12.4
百貨店(*3)	▲10.5	▲31.2	▲16.0	24.5	174.1
スーパー(*3)	2.1	6.4	0.6	▲0.8	▲0.1
コンビニ(*3)	▲3.3	▲4.9	▲6.4	1.4	6.2
乗用車(*4)	6.2	12.7	0.4	6.5	37.9
(季節調整値) (*4)	▲8.1	0.5	▲8.1	2.1	10.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

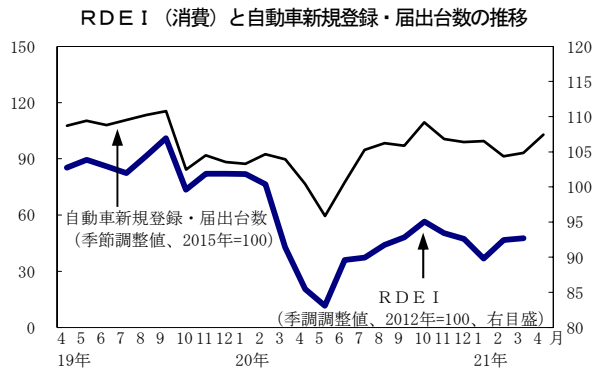
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
2021年4月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部  
(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。  
2021年4月は速報値。

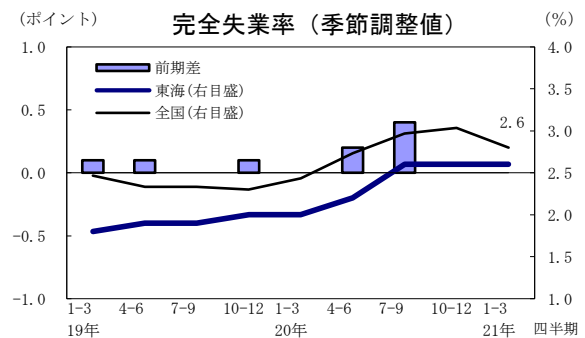
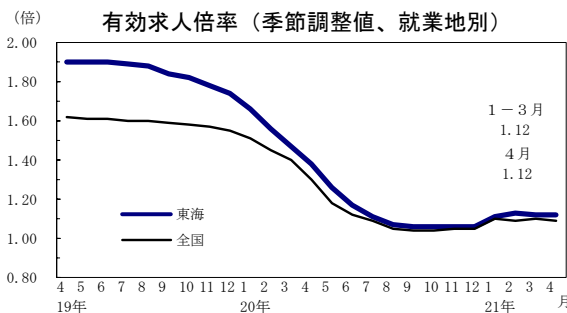
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

6. 東海

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
×			・近隣府県で緊急警戒宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用されて、当地でも状況は悪くなる一方である(一般レストラン)。 ・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置に伴う移動制限や出控えによって、個人消費が急激に減退している(百貨店)。
企業 動向 関連			・年度初めの4月は毎年契約者数が年度末の反動で激減するが、今年は減少せず通常の契約者数が確保できた(建設業)。
		×	・価格競争は非常に厳しいが、北米、アジアでの自動車向け設備で受注につながる引き合いが増えてきた(一般機械器具製造業)。 ・通信インフラ設備への投資状況は悪くないが、半導体部品の需給問題が少しずつ出始めている。特に通信機器の部品、製品の供給が遅れ、納品先からも懸念の声が上がっている。この先の売上、利益の確保が心配である(電気機械器具製造業)。 ・新型コロナウイルス感染症による経済活動の低下が中堅・中小企業の操業にマイナスの影響を与えている。中堅・中小企業のテレワーク等により、従業員の残業代が減少している(公認会計士)。
雇用 関連			・新型コロナウイルスの影響でホテル業界の求人は全くない(人材派遣会社)。 ・4月に入り関西、関東の新型コロナウイルスの感染状況が悪化し、緊急事態宣言が発出されるに至り、3か月前より悪くなっていると感じる。特に、ゴールデンウィークに期待していた観光関連には大打撃である(新聞社[求人広告])。
その他の特徴 コメント		：4月は外出制限や時短の要請がなく、飲食店の買い出しもあり、売上は横ばいであった。ただ、花見関連の飲食はほぼゼロであった。夕方以降、客足がガクッと落ちている(スーパー)。 ：当地でのまん延防止等重点措置の適用、4都府県の緊急事態宣言の発出で、宿泊は減少した。レストランは、夕食はほぼ客がない。宴会も少人数の会議が週1件程度あるのみである(都市型ホテル)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの終息が見えないために、迷っている客が多い。特に商業施設については顕著となっている(住関連専門店)。
			・これ以上悪くなる要素はないが、淡い期待を持っていた夏以降の取扱も絶望的になってきている。新型コロナウイルスのワクチン接種の効果も見通しが全く立たず、不安しかない。政府には観光・旅行業界を守る措置をいい加減、講じてほしい(旅行代理店)。
	企業 動向 関連		・需要は堅調であると思うが、半導体不足のため5月に減産するという連絡を完成車メーカーから受けており、3か月先も同じように減産するのであれば今と変わらない状態が続く(輸送用機械器具製造業)。
			・建設関連を中心として受注残が減少しており、配送量の減少が見込まれる(輸送業)。
雇用 関連		・県独自の非常事態宣言が発出され、まん延防止等重点措置の提供も要請されたことにより、飲食・小売業への影響が懸念される反面、看護・建設・運転手・歯科衛生士等の職場は人手不足のため、求人票の提出が多い(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		：夏に予定していた各イベントやその他の企画広告等も、最近の新型コロナウイルス変異株の影響により、自粛の方向に向かうと思われる(広告代理店)。 ×：まん延防止等重点措置や緊急事態宣言でアルコール飲料のイメージが悪くなり、販売量に影響が出ている。今後の見通しが立たない(コンビニ)。	

(D I) 現状・先行き判断D I (東海)の推移(季節調整値)

